

Noucha

ヌーシャ

[オーソライズ]

洒落なムードが流れる
隠れ家的ブティックホテル。

パリ中心部から少し離れた、ブルジョアムードが漂う高級エリアの16区にひっそり佇む4ツ星ブティックホテル。ヌーシャとはオーナーの祖母の名前で、家族愛をコンセプトに、家に招かれたかのような居心地のよさを提供したいという思いから名付けられた。ヘリンボーンの床やモールドリングなどオスマン様式の意匠が残り、そこにポヘミアンテイストのグラフィカルな柄やモダンな家具が寄り添う。ホテルロビーと併設するバー、レストランは隔たりなく同じ空間にあり、到着するとスタッフがカフェや紅茶で温かなおもてなしをしてくれる。宿泊客だけでなくバーとレストラン目当てに近隣のバリジャンたちが多く集まる、パリの暮らしに触れられる一軒。

66, rue Jean de la Fontaine 75016
☎01-78-77-77-00 @JASMIN
全27室 バスタブ付き5室
朝クワック 150ユーロ、スーパーリア 180ユーロ、
デファックス 240ユーロ、ジュニアスイート 270ユーロ、
コミニカント 315ユーロ
朝食 12ユーロ
レストラン Restaurant Noucha 朝食 7:30~10:30、
ランチ 12:00~14:30 (月~土)、
ディナー 18:30~22:00 (火~土)、
バー 12:00~22:00 日、月
<https://www.hotelnoucha.com/>



1.天井が高く開放的なレストランスペースで朝食が楽しめる。2.ニューヨークのナイトカルチャーを再現したカクテルバー。3.鮮やかな色と曲線が印象的なアームチェアなど、色使いやデザインが感性を刺激する。4.レコードプレーヤーなど好奇心をくすぐるディテールが随所に。



Experimental Marais エクスペリメンタル・マレ

[北マレ]

カクテル文化を牽引するグループの
クール&ヒッピーな遊び場。

かつては貴族街だったマレ地区は、パリで最もトレンドに敏感なエリアのひとつ。この地でカクテル文化を牽引してきたエクスペリメンタルグループが手がけたのがこちらのホテル。常駐のドアマンを迎えられ、エントランスの先に広がるのはレストランとカクテルバー。大きなガラス窓と白いドレープ、大聖堂のような照明が照らす空間で、夜は熱狂のパーティーによるカクテルを傾けながらドラマティックな時間を過ごすことをおすすめしたい。中心地にありながらゆったりとしたサイズの客室は、ビビッドな赤やグリーンを効かせた大胆な配色が印象的。エキセントリックかつエレガントな佇まいがマレ地区ならではの遊び心やセンスにあふれている。

116, rue du Temple 75003 ☎01-42-72-20-00
@ARTS ET MÉTIERS 全43室 シャワーのみ
朝クワック 400ユーロ、スーパーリア 425ユーロ、
フランスペリア 450ユーロ、
デファックス 480ユーロ、エグゼクティブ 550ユーロ、
スイート 890ユーロ 朝食 37ユーロ
レストラン Temple et Chapon 朝食 7:00~10:30、
ランチ 12:00~14:30、
ディナー 19:00~22:30 (月~木)
19:00~23:00 (金、土)
バー American Bar 18:00~翌2:00
<https://www.experimentalmarais.com/fr/>

Hôtel Massé

オテル・マッセ

[サウス・ビガール]

デザイン関係者たちが注目する、アートなホテル。

活気あふれるビガールエリアでいま、多くのクリエイターやデザイン関係者が注目するのがオテル・マッセだ。ミナルながら個性を感じさせる洗練されたデザインが生きた設計。若手アーティストの作品を中心に、工事中の時からこちらのロビーで制作された巨大な抽象画や、バスルームのタイルに描かれた客室ごとに異なる絵など、エネルギーあふれるアートビーストの出会いがある。家具はヴィンテージを軸に揃えられており、オリジナルメイドのテーブルなども。ホテル隣にはバーをオープン予定で、オテル・マッセを舞台に一層コミュニティが広がっていく予感。若いスタッフたちが両の愛らない気さくなコミュニケーションをゲストに提供してくれるのもうれしい。

32 bis, rue Victor Massé 75009
☎01-89-89-32-32
@PIGALLE
全40室 バスタブ付き8室、
シャワーのみ32室
朝シングル 180ユーロ、
クワック 200ユーロ、
スーパーリア 220ユーロ、
デファックス 240ユーロ
朝食 (ピュッス) 18ユーロ
<https://www.hotelmasse.com/>



1.客室ごとにインテリアは異なる。室内にバスタブのある62号室。2.木のデスクは特注で、リサイクルウッドを使用したもの。3.エントランス横のゲストのウェルディングスペースにはセンスよく花が飾られて、4.クリスチャン・ローザによる抽象画なアートピースが空間を彩り、ホテル全体がアートギャラリーのよう。



1.壁には旅で集めてきた世界中の本や家族の思い出の品が並ぶ。2.バーは宿泊客だけでなく近隣のバリジャンたちも訪れる憩いの場所。3.サンルーフから自然光が降り注ぐ、心地いライブ러리。4.朝食、カフェ、レストラン使いもできるオールデイダイニング。5.グラフィカルな柄が目立つポヘミアン調の客室。